

京交山岳部報

今月のテーマ <名月を山で>

[第1846回例会]★

飯盛山

日時 9月1日(日)
集合 壬生AM7:00
コース 壬生-R303-小浜-飯盛寺…
飯盛山(往路下山)
担当者 岡田茂久(☎811)
備考 マイカー登山。申込は早目に。
地図1/2.5万 小浜

[第1848回例会]★★★★

蛭ヶ岳～丹沢山～搭ノ岳

日時 9月14日(土)～9月16日(月)
集合 14日 PM8:00 壬生
コース 京都～御殿場IC～丹沢湖～熊木沢
出合～蛭ヶ岳～丹沢山～搭ノ岳
熊木沢～御殿場IC～京都IC
担当者 吉田 武(☎654)
備考 登山装備, 沢登り装備, テント泊り
で行きます。

[第1850回例会]★

磯木山 △545

日時 9月28日(土)
集合 壬生 AM8:00
コース 壬生-中…磯木山

担当者 大槻雅弘(☎544)
備考 四ツ谷1/5万で △500m以上31山
あり。小生にとって31山目の完登記
念登山をしたいと思っております。
簡単な山です。どうぞよろしく。

[第1847回例会]★★★

剣岳

日時 9月13日(金)～9月16日(月)
集合 京都駅中央改札口 PM10:00
コース 京都-富山-上市-馬場島…早月小
屋…剣岳…三ノ窓…小窓…仙人池…
阿曾原…ケヤキ平-宇奈月-富山-
京都
担当者 井戸澄夫(☎756)
備考 故大木秀実君の追悼の為に登ります

[第1849回例会]★

敬老登山

那須が原山

日時 9月15日(祝)
集合 竹田駅西口 AM8:00
コース 京都-柘植-油日…油日岳…那須が
原山…油日-京都
担当者 井上一夫(☎750)
備考 マイカーで行きますので参加者は連
絡して下さい。

今月の集会

日時 9月10日(火) PM6:00
場所 厚生会館4F大教室

企画運営委員会

日時 9月20日(金) PM6:30
場所 厚生会館4F大教室



コンパス

岡田茂久

「登山に使用する用具を5つ挙げてください」と言えば、その中にコンパス（磁石）を入れる人も多いことだろうと思う。日曜日のターミナルでも、地図ケースとコンパスを肩から掛けた登山者をよく見かける。それだけ登山用具としては普遍的なものでありながら、実際にはこれほど使用されない用具も少ないのではないか。近郊の登山や、アルプスの夏山登山等では、一度もコンパスを取り出して、ルートを確認をしたことが無いという人も多いのではないだろうか。コンパスは決して、「これから登山に行きます」という標識でも、アクセサリでも、持っているだけで安全登山ができるお守りでもない。

コンパス（Compass）、辞書には磁石・方位盤とある。文字どおり方角を確認するのを目的とする用具であるが、自分のいる現在位置を確認し進行方向を決定する等、地図と併用することにより、はじめて生きてくる有効なアイテムなのである。

なるほど、初めてのルートでも道標の完備したアルプスや近郊の登山道では、一般にいうハイキングマップだけで、時には地図も磁石無しでも歩くことも可能である。しかし、道の無い山、北山のバレーションルートでも、磁石か地図を忘れた場合は、もう引き返すほうが無難である。

多くの登山者は磁石と地図を携行しても、残念ながら使う機会が少ないのである。連れてもらう登山から、ここで自分で歩く登山へと脱皮しようではないか。決して単独登山を進めているのではない。近郊の登山であっても、パーティ全員が常に磁石と地図を手を持って歩き、充分使いこなせる様に練習したいものである。磁石と地図の活用に慣れていなければ、いざというときに決して役に立たないであろう。

しかし、磁石と地図を携行し、いくら使い方に精通していたとしても、濃いガスの中や、夜間の場合は、これはもうお手上げである。

ところが最近、GPS（Global positioning System）、地球位置測定システムを利用した、携帯型の位置測定装置なるものが発売されたのである。GPSとは、元々は軍用で、米国防総省が管理する人工衛星により、海洋で艦船が自分の位置を正確に確認するため開発されたものである。近年、ジャイロスコープ（地球ゴマが原理、光ファイバージャイロなるものも開発されている）を利用した、国産高級乗用車にオプション装備されてきているナビゲーションシステムもこのGPSで位置の修正をしている。地下鉄では無理だが、GPSを利用して都市間鉄道や新幹線の列車位置の検知システムも開発中である。

こんど開発された携帯型の位置測定装置は、海洋レジャーに開発されたものらしく完全防水であり、アンテナを含めても重量は600g足らず、即座に緯度・経度・高度まで表示できるという。出発地点と目的地点を事前入力しておけば、リアルタイムで現在地からの距離や方角なども表示ができ、測定誤差±30mという優れ物で、登山にも使用しない手は無い。現在は、一日に15時間程度しか測定できないが、近々、衛星の数が増強されると24時間測定が可能となるといふ。

緯度・経度を細かく記入した地図と位置測定装置があれば、ガスの中でも夜間でも、自分の現在位置が判るという夢のような時代がきたのである。しかし、値段は15万8千円。ちょっとまだ手がだせない。負け惜しみでは無いが、やはり、用具は簡単で確実な物が良い。これからも磁石と地図による位置確認は登山における基本であることには変わりはない。

【第1842回例会】

三方崩山と大門山 大槻雅弘

毎月、想いをめぐらして、次の山は何処へしようか。北山へも行きたい。北陸も登って見たい。久しく北アルプスへも足を運びたい。でも、考え、想いを山に向けるうちつつい、奥美濃『ぎふ百山』へと向かう。本の目次に、登ったところを消していく楽しみも、ぎふ百山のうち、71山目になった。今回はその中で、三方崩山を選んだ。

この山は、高度差が相当ある。登ろうと呼び掛けたら4名のメンバーが揃った。平均年齢はいわずと知れた50〜何歳。この歳では一気に登るのはしんどかろうと、前夜発も疲れるし、当日出発して、昼頃からポチポチ登るからどうぞと声を掛けた。

7月13日。その日、昼食は御母衣ダムで、心地よい風を受けて摂った。三方崩山へは、平瀬村の寺の横から林道は上へと続いていた。その林道を、二、三度カーブを繰り返すと大きなトチの木があって、そこで車止とした。

少し、ほんの少し登っておけば、1時間程でも歩いておけば、明日が楽だから、少し上でテントを張ろうと言って出発した。前日の雨で、道が水でえぐられて谷川のようにになっている。登山靴を濡らしながらしばらく進むと地道から舗装道路になり、10分程でその道は止まった。そこから左手に『三方崩山登山口』の指導標に従い、細かい山径となった。

小さな谷に沿って登ると、すぐに最初の尾根に続いているジグザグのよく踏まれた道へと続いた。一汗かいた頃、小さな谷に合う。冷たい水が流れ落ち、最後の水場であろうと、ポリタンに水を補給する。ブナの木々が、空を覆っているのか、梅雨が明け切らぬのか、空は青空が少ない。高度1020mで尾根に乗る。心地よい風が肌を通り抜け、今までの登りの汗を引かせる。

最初に乗った尾根から、次のポイントであるP1244mまで、約高度差230mの間はブナの青葉が素晴らしい処である。P1244mは見晴らしはないが、ここで冷たいトマトを食べる。ザックの外にくくりつけ、潰れないよう持って来たものである。朝冷やしたものがまだ冷たく、それが喉を潤す。

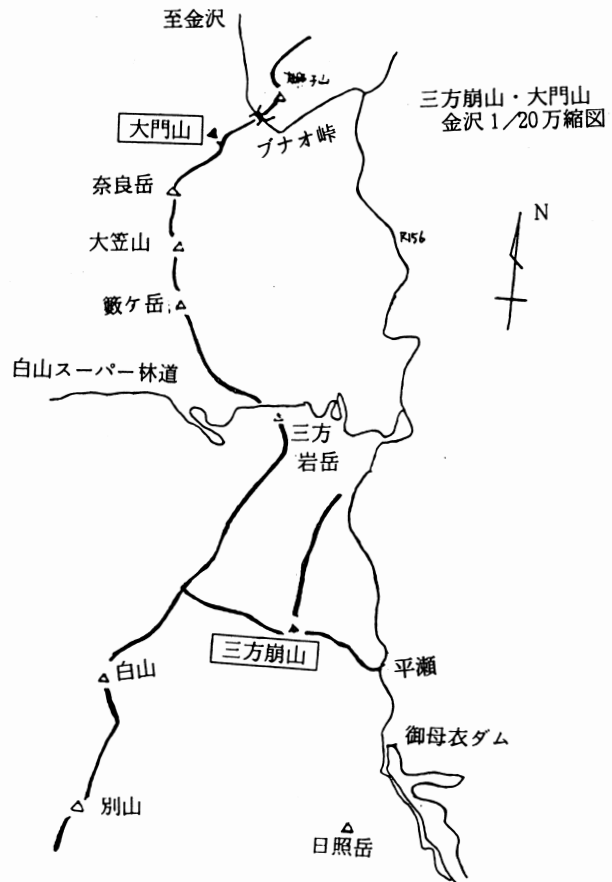
少し平らな処でテントは張れそうではあるが、まだ午後3時なので、もう少し登ろうと、次のポイントP1624mを目指し進む。今まで比較的緩やかな径が、直登きみになりフィックスロープが張ってある。径は、思っていたより平らな場所はなく、急坂を次のポイント1956mにまで足を伸ばすことにした。そのポイントに出る少し手前から、前方の頂上直下であろう、崩れるような斜面に残雪を見る。足元にはニッコウキスゲが咲き、北アルプスの様なガレの尾根径になる。やがて北側より尾根が合流し、高度計も2000mをオーバーし、頂上近くになったことを示す。晴れていれば、怖いようなガレが見えるだろうがガスって見えない。でも、足元は一部

相当崩れたナイフェッジの場所もあり、慎重を要する。そのガレ場を通ると一つ大きく下がって、南に尾根径は方向を変え、一登りすると待望の三角点へと出た。残念ながら、ガスで展望はない。目の前の白山もガスの中。予想していたより木々が多く、そのうえ三方崩れの状態も見えず、山名からは期待外れの二等三角点であった。恐らく、晴れていたなら、この思いは吹き飛んでいただろうと思われる。でも、ガスっていたおかげか、次のポイント、次のポイントと言いながらついに頂上まで来てしまった。

その夜、三角点より100m程下った径の真ん中で、両サイドを少し切り開いてテント地とした。食事を終えて、空を見ると、夕方のガスは晴れて、今にも降ってきそうなあふれんばかりの星が、満天の空をうめていた。

7月14日。当初の計画を達成したので、今日は山を下りるのみの行動である。だが、いつもの虫は治まらない。「白山スーパー林道を越えて一つ登ろう。」「いや、ブナオ峠を越えて金沢に出よう」と。日曜日でもあるのに、歳を考えておとなしく帰れば良いのに、欲な話が出る。

三角点2058mから700mまで下る急坂はヒザにこたえる。下山の途中、村人の登山ルート of 草刈りチームに出会った。御苦労様なことです。しっかりしたルートは、この人達のおかげで頂上まで続いているのだ。お陰様で予想していたより良く踏まれた歩きやすい山道であった。車止で冷たい谷川の水で汗を流し、一路車をブナオ峠と走らせた。



峠には、村営のキャンプ場があって、トイレ等も完備し、広く開けた所であった。ヒザの痛さも忘れ、「一つ稼いで行こう、すぐそこだから。」と、又も甘い言葉で山支度をした。大門山1572mへ一気に登る。ここもブナの木が大変美しい所であった。往復3時間、満足を通り越しグッタリになって金沢へ抜けて帰落した。一泊二日の欲張った山旅は、あくる日の鋭気を養うどころか、足の痛さを隠し我慢するのがやっとこさ。本音はこれだが、素知らぬ顔をするのがキャリア

と言うものか。

参加者 岡田茂久, 渡辺智生, 三橋 勉, 大槻雅弘

コースタイム

7月13日 東IC 6:50 — 御母衣ダム 12:15 — 13:20 車止 13:36 …… 14:00 水補給 …… 14:15 最初の尾根 14:52 P 1244 m …… 16:10 P 1624 m …… 18:05 北からの尾根合流 …… ▲18:15 △ 2058.8 m 三方崩山

7月14日 5:00 起床 6:20 …… 7:55 P 1244 m …… 8:50 車止 9:10 — 10:50 プナオ峠 11:15 …… 12:45 △ 1572 m 大門山 13:30 …… 14:30 プナオ峠 15:00 — 20:00 帰洛

【第1844回例会】

羊蹄山と道南の旅 I

ニセコアンヌプリ I △ 1308.5m

7月26日

津田 実

五色温泉の登山口に車を止め服装を整えて乍ら、京都から長駆北海道の山へ夢と希望を持ってやって来た。ニセコアンヌプリと、はどんな山なのだろうか。

此処迄来る途中で見たその麗峰と裏腹に厳しい歓迎で接してくれるのか、山の住人、罨は凶暴で見境なく人を襲うと聞いたが、一抹の不安が脳裏を横切る。

登山道は広く入り口で3人の男の人が降りて来た、それは登山者ではなく何か仕事でこられたらしい。早速山頂の様子を伺う、「避難小屋はなく、建物があるが嚴重に鍵がかけられ中には入れない」とのこと。それは今日の天気有余り芳しくないで女、子供を連れてのこと万一のことを考えたからだ。

右からも道が上がって来た、此の付近を見返り坂と言うらしい。然し、その道はロープで塞がれていた。此の辺からは道は累々たる岩石と急斜面が前途を阻み非常に歩きにくく老体には厳しい歓迎となる。でも前を歩く人のその余りにも軽い服装に驚く、とても高山に挑む登山者とは思えぬ。

雲行きが怪しくなってきた風も強い、どうも一雨がくるらしい、道端の小枝を拾って杖となしピッチを上げると右側に慰霊碑が現れた、調度休憩によい場所だったが、先頭がどんどん行くから仕方なく後を追う。すると左に羊蹄山が見えたので一本立てる。

羊蹄山は濃いガスで姿を隠すかのようだったが暫くすると中腹付近の雲が散ってその容姿を垣間見せた、よし明日はあの山を登ろう。小憩の後、休んだ分を取り返すように大倉君がピッチを上げるものだから少しの時間で稜線に飛び出した。予想どおり山頂は風が強く流石に北海道の一等三角点の歓迎は熱烈なものだ。

ニセコアンヌプリ山頂の観測所跡石碑の前で記念写真を撮る、三角点は奇麗に手入れがしてあった。今朝、下で会った人の仕事とはこのことだったのか、強風にあふられ無人小屋の壁にヤモ

リのようにへばり付いて食事の用意にかかる、E P Iの燃焼音と共に熱いお湯が沸いてくる、先ずビールの栓を抜く。食事の途中で大勢の子供達が上がってきた、なかには震えている子供もいたので場所を譲り、雨が近いから早く降りるように言って下山にかかる。五色温泉の前で泥に汚れた山靴を洗っていると、ずぶ濡れの子供達が三々五々とおりにきたので早くお風呂に入って着替えるように言う。誰方の企画は知らぬが天候も考えず大勢の子供を山に上げるその無謀さに腹が立った。子供達にもよい教訓になって欲しいものだ。

“自然のサインを無視すると命にかかわる”ことを。

羊蹄山と道南の旅 II

後方羊蹄山（真狩岳） 一等本点（1892.02m）

7月28日

大倉 寛次郎

私にとっては、長年の計画であった北海道の山行である、道内は焦らずのんびりと心身のリフレッシュと計画を何回も繰り直した、まず、天気の良い日は山へ。そして温泉には毎日入る。北海道の味覚は十分に味わう。三か条を念頭に置いて計画を作成した。今回は、十二支の山であり、吉田君と私が48才、羊歳なのでこの羊蹄山をメインにすえよほどのことがない限り実行することにした。

『山名の由来』羊蹄山は、以前後方羊蹄山と書き、シリベシヤマと言いました。現在の後志支庁管内一帯を江戸時代には「しりべし（後方羊蹄）の地」とよんでいたところからきたものです。後方を「しりべ」、羊蹄を「し」と読みます。ですから、羊蹄山と書けば「し山」とよむべきかも知れません。しかし「羊蹄」をシと読むのは植物のスカンコやギシギシの中国呼称で、単にシと読む字を組ませた和山名だとの説もあります。また北海道の山の名は麓を流れる川の名から付けられることがほとんどです。羊蹄山もその例にもれず、蝦夷と呼ばれていた時代の古い地図には「尻川岳」「尻別岳」となっていました。またアイヌ語ではマクカリヌプリまたはマチネシリと言われたようです。マクカリヌプリは尻別川の支流が羊蹄山の南半分をぐるりと巻いて流れていて、マク（山手）カリ（廻る）の意味から名付けられた川の名と、ヌプリ（山）が合わさったものです。マチネシリは「女山」を意味し、南東へ10Kmほどのところにある現・尻別岳をピンネシリ「男山」として呼んだ古い時代や、新しくは後方羊蹄をコウホウと誤読して、尻別岳を前方羊蹄と呼んだ時期もあります。このようにいろいろな名前が羊蹄山にはありますが俗称としては富士山にちなんだえぞ富士が一番一般的な呼名と言えるでしょう。『観光課登山ガイド』より

7月28日（日）午前6時30分台風の影響で天候がハッキリせず、雷電山か羊蹄山か吉田君は判断を決めかねているようだ、とりあえず朝食が終わるまでに結論を出すとの事で、我々は出発の準備をする。外に出て山の天気の様子を見ていた吉田君から、羊蹄山に登ると声が掛り、車にザックを積み出発の用意をする。吉田君はヒュッテのオーナーに下山口まで迎に来てもらうようお願いして出発する。車で10分程走り比羅夫登山口（広い駐車場とトイレの施設がある）に着くと、途中には駐車場が建設中であった、すぐ上には半月湖があり原生林におおわれている。

登山口にある箱に登山届けを記入して出発する。一步一步足の裏から伝わる感触と、大自然を

肌で感じ今までの夢のような計画が、一步踏み出すことにより実現に近づく思うと言葉では表現できないこみあげて来るものを感じ、胸の高まりを押さえながら広葉樹林の中を進む。20分程で平坦な道は右に折れジグザグの登りにかかる、樹林の切れめから望めるニセコアンヌプリやスキー場、広々とした草原、緑、野菜の畑の中をどこまでも続く長い一本の道路。どこを見ても始めてみる光景に驚くばかりで、緊張のせいか余りえらさは感じない。四合目で一息入れていると、年配の夫婦と出会う、我々より一時間半前に登りだしたとのことで、頂上まではまだまだあり13時には九合目に着かなければ下山するようにアドバイスする。五合目の手前で下山者と会う、言葉を交わすと『昨日(27日)は、羊蹄山の祭りで多数の登山者と報道、テレビ、関係者が登り行事をする予定であったが、あいにくの雨で中止になった』ということである。“今日であればよかったのと思う”。ひらふ夫婦松を過ぎ、六合目(1170m)ダケカンバ、ナナカマドのトンネルを抜けると七合目へ。八合目の手前11時50分頃に真狩コースから登り比羅夫へ下山中の友人と土肥氏と出会う。予定は聞いていたがこの広い大地で良くぞ会えましたと言葉を交わす。彼はこれから尻尻へとむかうとのこと。徐々に増す高度、後ろの方で声はすれど姿見えずで大きなかけ声が聞こえる。九合目で休憩していると、社会人のグループで女の子が調子を崩したので励ますために声を掛けて居た、登ってきた本人は青い顔して『まだ九合目』と行って少し上で座り込んだ。それではお先に出発、ここからはハイマツ帯で多くの高山植物が生息している。車ゆり、イワウメ、エゾノツガザクラ、イワオトギリ、イワブクロ等、オレンジ、白、ピンク、黄色、紫、色とりどり一面のお花畑の中を写真を撮りながら登る。頂上と真狩の分岐を左へ行くそして右下の火口を見て(大火口“父釜、母釜、子釜”)少し行くと左に三等三角点がありカメラに収める。はやる心を押さえながら山頂へ一歩一歩近づく。込み上げてくる感激、羊蹄山頂上測量檣の下にある一等三角点に触れた時、思わず“ヤッター”と叫んだ。そして若い二人の辛は感激の握手を、皆の歓迎を受け例のバンザイと缶ビールで祝杯を上げる。今日は最高の天候で360度の大展望を楽しむことができた、人生最良の日、言うことなし。“これも同行者の皆様と山の神(妻)の協力のたまものです”三角点は現在再測量中でした。風が強く40分程で山頂を後にする。一時山頂はガスに包まれたが間もなく晴れ下山は、来た登山道を分岐まで戻り、真狩コースへと。この辺りは星ヶ池湿原があり高山植物が多く生息している。このコースの九合目下の薬草ヶ原には避難小屋が有る(6月中旬から10月中旬まで高山植物監視員をかねた管理人が常駐している。協力費が必要、水は十分でないので必ず持参すること)下りはトレーニング中の数人の若者に出会う。途中エゾシマリスに出会った。まつぱっくりを口にくわえ何とも言えずかわい。様子を伺ってチョロチョロと動き回り、木に駆け登って姿を消した。五合目から少し下ると正面に洞爺湖と有珠山、昭和山が見え下りのつらさを一瞬忘れ風景に見とれる。下るにつれ所々昨夜の雨でぬかるんだところがあり、足元が気になる、時には尻餅をつく。このコースは登りよりもとても長く感じた。吉田君は迎えの連絡のため一足先に下る。無事真狩登山口に着く。完登の記念写真を撮り車道を道新山の家へ、30分程待つと迎えの車が来て比羅夫側駐車場へ送ってもらう。それから温泉につかり心身ともさわやかにして、“もるげんろーと”へ。

今夜はオーナーの心づくしのジンギスカン焼き肉で夜の更けるのも忘れた。

羊蹄山と道南の旅 Ⅲ

札幌岳 $\triangle 1293.3\text{m}$ 一等三角点

7月30日

梅津, 吉田 武

北海道の山旅も、中間点にさしかかった。定山溪温泉の湯煙りを前方に見ながらR230を、右折して豊平峡ダム専用道路に入る。(途中より獺ダイハツの電気バスでダムまで定期バスが走っている。)

札幌岳に登るには専用道路終点の少し前より道標が立っていたが、ダム見学のマイカーに混ざって駐車場に停めさしてもらった。

沢を挟んで対面の山腹に登山道がついているので、適当な所を選んで登山道に入る。

よく踏まれた道を熊よけに持参した笛を吹きながら快適に歩く、両尾根が迫って来る頃やっと北海学園の冷水小屋についた。

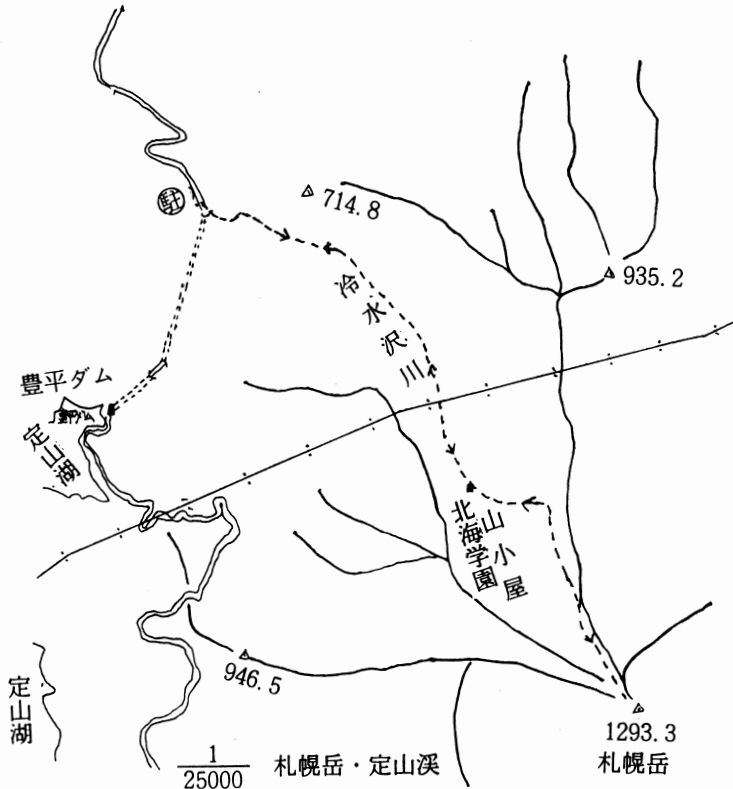
小休止をして急坂を200m位い登ると斜度も緩くなり展望も開けて来た。

広い高原を登り切ると札幌岳の標石が我々を迎えてくれた。

遠くに羊蹄山、ニセコアンヌプリ、余市岳が望まれ北の方には札幌市内が広がっていた。

三角点より少し外れた風の当たらない所で昼食のカンパイをして暫く休む、

腹も一杯になったので往路を下山して定山溪温泉のパークホテルで入浴して帰った。



羊蹄山と道南の旅 IV

旭 岳 I ▲2.290m

8月1日 薄曇り

津 田 実

今日は大雪山山群の主峰旭岳を目指す。昨夜泊まったホテル玄関に熊の剥製があったが、その物凄さに圧倒され、ロープウェーの運賃の高いのに吃驚。更にロープウェー駅出口の大看板の文字がフルッテル「貴方は熊の棲息地帯にいます」又、熊に出会ったときの注意事項があったが安全策は書かれていない、熊に遭うのが嫌ならくると言うことか。

熊が怖いから今井さんと、ウチノ、オバハンがホテルの売店で買った鈴がヤタラと大きな音がするので昼寝中の熊が起きて来ないか心配だ。

その大看板の前をとおり過ぎ姿見ノ池を左に見て少し行くと登山道にでる。此の付近は大勢の登山者や散策者で比叡山ドライブウェイの駐車場のようである。

行程と斜度を考え「山頂迄3ピッチでいく」との吉田君の号令で及ばず乍ら小生が先陣を受け賜って出発したが、今回の北海道行の為にトレーニングに励んだせいかな全員足が軽く2ピッチと少しで山頂三角点に到着した。

山頂で我がクラブ恒例の万歳三唱ののち登って来た道を右に送り、間宮岳に向かって左側の急斜面を降りるのだが此れが又難儀で砂礫の堆積地帯で滑り易く山靴でなく軽登山靴ではストップが効かずモタモタしているうちに先頭と離れて仕舞いオコラレタ。

下には綺麗な水が流れテントも張られていたがそれを横目に登りにかかる。途中で消防学校の生徒さんの一行に逢う。「今日は」の連続でなかに「お父さん頑張るって」の声援を受けなんとか中岳分岐に辿りつく。層雲峡から登って来たと言うピチピチギャルに聞くと此処から黒岳を経て層雲峡迄3時間ほどで行けるそうだ。

中岳分岐から層雲峡への道を右に送り中岳温泉目指して左の緩い斜面を降りて行く。降りるに従って火山礫から這松地帯に移り中岳温泉・裾合平の指導標のある地点から急降下していく、左側にまるで鋭利な刃物でバツサリと切ったような断崖が見え付近はお花畑でそれは見事なものである。尾瀬では無念にも体調を崩して撤退したが、それにも劣らない絶景が3時間近くの続いた。

中岳温泉は自然のお湯で若者が浸かっているのを横目に下山の時間の関係からそばを通り過ぎ池糖の中の小道をロープウェー駅へ急ぐ。

白鳥の雪渓が望見できる地点から少しで残雪の残る谷川を渡ると又もや軽装のハイカーに出会う、此の人達には天候の急変や熊の出没は無縁なのだろうか？

姿見ノ池手前のベンチで間食の準備をしていると自然保護委員の腕章を付けた人が現れ、大雪山系の四季の美しさや、その移り変わりのお話を承り、登山道を少し行くと突然、子栗鼠がウチノオバハンの前に現れた、吃驚したオバハンが乾パンを手の平に乗せてやると件んの栗鼠がオバハンの手からパンを取って這松の中で食べて無くなると又オバハンの手に取りに来る、何時の間にか狭い登山道は人で阻がり中にはカメラを構える人も、一寸としたモデル騒ぎ、でも誰も声をださない。嗚呼此処には私達の周辺で失われて久しい自然が今あったのだ。

此の自然を何時迄も、子孫に残したいものだ。樹林の間に狐や貂を見て、栗鼠が人間に戯れる、

此の自然を。言い知れぬ感動を胸に下山した。

(参加者) 吉田 武, 美佐子, 康一, 津田 實, 照子, 今井勇一郎, 大倉寛治郎, 由喜子

7月24日～30日の記録(大倉)

7月24日(水) 大倉宅19時出発, 吉田宅19時22分, 須知やまがた屋20時18分～24分, 舞鶴港フェリーのりば21時40分, 出港23時30分

7月25日(木) フェリー「ニューあかしあ」

7月26日(金) 小樽港5時25分～50分, ニセコ山の家駐車場8時00分～28分
ニセコアンヌプリ登山口8時30分 頂上一等三角点10時10分～11時
登山口11時45分 五色温泉12時～13時10分
もるげんろーと藤井15時

7月27日(土) もるげんろーと藤井8時10分 武四郎坂(洞爺湖展望台)9時25分～40分 有珠駅10時25分～41分 測量山11時40分～12時
地球岬12時20分～45分 昼食(小がね)13時15分～14時07分
道央自動車道苫小牧西IC15時 樽前山登山口駐車場15時21分～30分 頂上一等三角点16時10分～16分 登山口駐車場17時～12分
もるげんろーと藤井19時

7月28日(日) コースタイム

もるげんろーと藤井8時27分 羊蹄山(比羅夫コース)登山口駐車場8時40分～55分 二合目9時41分 三合目10時00分 四合目10時15分～22分 ふらふ夫婦松10時40分 五合目10時46分 六合目11時05分～17分 七合目 11時37分～48分 八合目12時11分～16分 九合目12時29分～35分 頂上と避難小屋の分岐13時00分 羊蹄山頂上一等三角点13時20分～58分 真狩と比羅夫の分岐14時10分 避難小屋跡14時22分 真狩コース九合目分岐14時29分 七合目15時15分～21分 六合目15時38分～41分 五合目15時56分 四合目16時15分～25分 真狩登山口17時12分 道新自然の家17時17分～46分(迎いの車にて駐車場へ)

7月29日(月) 藤井9時～19時30分 道内観光, 余市町ニッカウイスキー, ソーラン節発生の地, 小樽, ニセコワイス高原温泉

7月30日(火) 藤井6時35分 中山峠7時32分～49分 定山溪ダム駐車場8時12分～25分 登山道を林道が横切る9時12分～24分 冷水小屋9時55分～10時05分 札幌岳一等三角点11時15分～12時06分 冷水小屋12時57分～13時08分 ダム駐車場14時06分～28分 定山溪温泉14時40分～15時15分 札幌市北五条16時20分

〔個人山行〕

夏の北海道の山旅

坂井久光

梅雨の上った7/22出帆のフェリーで24日早朝小樽へ。バスで余市へ行きタクシーで余市ダムの下流、豊丘町最奥の民家で天狗岳のルートを知ったが、林道は廃道で藪の為、残雪期しか行けないとのこと、やむなく林道の奥迄その先は一軒の所で下車、小広い荒地でブル道が奥に延びており、笹や蔭の茂った道跡を稜線に出たが、やはり藪で昔は広い道だったようで切った木材が所々にあった。その先林の中に入ったら藪が荒くなり少し歩き易くなり昔の林道跡が尾根筋に沿っており、先で谷を渡り対岸のブル道と続いているのが判った。

ブル道を登ってエゾ松の植林地に出て上の方に車道らしいものが見えたので斜面を登って行くのと立派な未舗装の林道で車が走った跡がありこれが古平からの山越の林道と思った。

その先でブル道が広場から別れており調べたが駄目で更に先に林道を歩き続けた。

すると前方から車が来たので訳を話し、天狗岳の直下迄送ってもらうことになった。車は古平町界の峠を越え、山腹をまいて走り370/369林班の境界迄行って、礼を述べ小志を渡して別れた。彼はこの道は余市ダムから古平町の清掃所のある積丹横断国道に通じていると教えてくれた。車ならここ迄余市から来れたのだった。

併し地理院の測量時の踏跡は調べたが何処か跡方もなく、朱の標識のある小沢を登り苗の植林地に出たがその先は藪で全然道なく、根曲竹の群藪であきらめて引帰すことにした。

車道をどんどん歩いて町境を越え、分岐で梅川町の清掃所へ下る道を取って下さった。すると小一時した頃集材所で老夫婦の車が一台止っており、もう暫くして帰るとのことで便乗を頼んだ。後の荷台に切株や薪を積むのを手伝って梅川町の国道のトンネルの手前に出た。訳を話して豊匠町の家に不要品のリュックを預けて来たことを話すと、彼も名前が私と同じで奇遇と感じて行ってくれ、彼(下山氏)の家で一休して別れを告げ余市から長万部へ。

遅くなったので長万部温泉の旅館で一泊。翌25日、バスで北松山へ。車で太櫓の良瑠石川の河口の橋元迄送ってもらい、林道を迎えることにした。すぐ河原に出て砂防ダムの近くでなくなりやむなく川を遡行したが割に水量が多く滝はないが瀬が多く約2時間遡った処でゴルジュに出会い3段約10m位の滝に行手をはばまれそこから引返した。帰りによく河口近くの林道を調べたが、ダムの手前に草に覆れた分岐がありどうもそれが奥に延びているらしいが、夏は無理で人も車も入れない状態だった。歩いていると後から車が来て北松山のバスセンター迄乗せてくれた。

バスを乗継いで乙部へ向ったが宮野で江差行のバスが出た後で仕方なく車を待っていたら大成町会議員の石原栄丸氏の車に拾われ、話によると京都に若い頃いたとのことで、話がはずみ乙部町迄早く着いて交番で聞いた乙部温泉光林荘へ行き一泊。天然温泉の良い湯で、昨日に続いて温泉に浸り疲れをいやした。

7/26 車で乙部岳登山口迄行き、5.2Kの標示を見て杉林の小山を越えて姫川の川沿いの登山道を右岸左岸と渡って二股の中央尾根を九九折の急坂を雨の中を傘指して急登してやっと稜線に出たが4Kで後1.2Kもあり緩い上り下りの刈分道を迎ってレーダー雨量測量局舎の新築が立つ山頂に昼前に着いた。標高1,016m晴天なれば地位盤の通り既登の羊蹄・ユーラップ・大千

軒等の山々が見える筈だが相肉の雨で展望0。局舎の下で雨をさけて一休して舗装道路を下山に利用した。姫信峠の先で工事の車が下って来たのに便乗して乙部町へ。喫茶店で休んで八雲行快速バスに乗り八雲駅前に行き、食堂兼民宿に投宿。

翌7/27 JRで黒岩に行きS63年山形と西側の志文内川の林道を車であつめて登路を探したが一面の根曲竹の藪で引返したルコツ岳532mを東の方から登るべく国道を北へ豊津口のルコツ川とロコツ川の中央の林道の最奥の長谷川光治さんを尋ねて登路を聞いた。

すると河村皆子さんの名前が出て今西錦司氏や森下京大名誉教授の名が出て吃驚した。

彼は一人でルコツ岳の自然を愛し昔は狩人で罾をとったりしたが、悟るところあってやめて自然を友として暮しており超能力があり不治の病や悩める人を救ったりしているが、一切礼を乞はないやさしい人で望遠鏡を持って案内すると云って地図の破線路の林道を奥へ、更に植林の切開を辿って山腹に出たが、切開もここ迄、後は昔の道跡を辿ったが根曲竹の群藪でエゾ松の植林地に出て一息ついたが又先は藪で谷に一旦下って廻行して山頂直下の露先の草地に出てやっと櫓の立つ山頂へ。

一次基準測量瑠思岳パスコ等、表示板があり5月～12月にかけて測量が行なわれることを示していた。曇で展望は駄目だったが二人で万才三様、約5時間かゝった。すると若者4人のパスコ測量の人達が反対側、支文内側から新しい切開を通して上って来て私達を見て吃驚した。切開は彼等が作ったもので重荷を担いで約5時間かゝったとか。下山はすぐ谷筋を下降して中腹から小道に出た最初の切開に出て林道を下ったが途中から高野昌治氏の車が下って来て乗せてくれ、話を聞いて私は大阪府泉南市の出で10年前から長万部町に移住して山の請負仕事をしているが是非今晚家に泊りに来てくれとのことで、時間も遅いので同町国丘の林中の一軒家へ行き一泊。

翌28日奥さんに洗濯して頂きその間彼の新築中のドーム型一軒家や畑を見学させてもらったが、中に器用な方で木工製品のくさりやマユミの変形彫物など美術的手芸品が飾ってあった。近くに二股温泉があり安くてよいか、又そこから最近有名になった美利加温泉迄道があり約3時間行程とか。周辺は草地やアヤメが咲きブルーベリーも作ってあった。

翌29日は朝から快晴で奥さんに汚物を洗濯して頂き乾くのを待ったら午後になり、厚くお礼をして長万部駅から小樽へ。バスで札幌に行きカプセルホテルで一泊。

翌30日深川の田中さんから聞いた通り奈井江へJRで行き、タクシーで不老滝迄行って美唄山987mへ。約400m程戻った山側に小谷に5m位の滝がある地点に上る新しい林道が分れており、それを登って歩いていると奈井江町の車が来て終点迄乗せてくれ、その先新しい切開が山頂迄あると教えてくれた。一休して歩いて行くと途中で右へ曲る頃一峰を越え尾根も痩せてきてその先に山頂が見えて来た。一登りで櫓の廃材が傍にある三角点に着いた。展望360に開け、遠くピンネンクや音江山、芦別岳・夕張岳等の山々が曇空に望めた。一休して展望を楽しみ写真をとって下山。不老滝の林道を歩いていくと向いから車が来てそれが戻って来たのでヒッチして奈井江駅前へ。全く運がよくおかげで早く下山出来、JRで深川へと駅に行ったが便がなく、バスで深川へ。田中に電話で無事登頂したことを告げ、JR深川駅で幌加へ。

駅前近くの旅館で一泊。翌30日一番列車で湖畔へ。落の台は廃駅となり止らないとか。

仕方なく車道を12K程歩いてピッサリ山登山口の近く手前でやっと始めての車が出て入口迄ヒッチしたが九州の宮崎の若夫婦だった。登山口迄3.2Kとあり、車が一台止っていたが、その先川を渡って新しい苧開が先に続いていたので、渡渉に気を使って真横の営林署の標識に気付かず、奥へ進んだがカラ松の植林帯で道は終り探したが判らず、又林道をバックして渡渉点で8.7Kの標識を見付けてがっかりした。時は12時すぎだったので今から往復は無理でJRの便も車も少いのが判り来年に延ばして林道を国道へ。蔭の台駅へ寄って見ようと歩いていたら埼玉県の車が来てヒッチして美深へ。公務員一家で森林公園へキャンプに行くとか。運よく駅まで来たか、旭川へは便が悪く仕方なく、又中川のポンピラ温泉に行くことにしてJRで天蓋中川へ。顔見知りの一同に合って落ちついた気分となり、風呂に入り明日の日程を考へ。一泊して次は芽室岳を目指すことにして翌31日JRで札幌經由石勝線特急で新得乗換御影へ行き、夕食をとり食料を買ってタクシーで山麓の山小屋へ。良い山小屋で誰も先客なし。すぐシュラフにもぐって就寝。翌8/1 4時過ぎに目があき朝食後出発、良い天気の良い道で7時半頃登頂。展望360で遠く大雪山やトムラウシ等の旭岳や、ウベペサンケ・音更等の山々が雲の上に顔を出し、のカムエク岳や、幌尻岳、ベテガリ等の山々が雲間に見え、近くに創山や帯広岳等も眺められた今日は快晴と思ってカメラにとって一休みして下山。小屋に戻って装具を荷って長い林道を歩いてやっと牧場のゲードに着いて電話をかけようとしたが電話はないとのこと。一休して仕角なく歩いていくと牛乳運びの車に合ったら御影へ行くとのこと。タンクのある車で人のいない牧場から牧場へ牛乳を集めて廻り、御影の家へ昼食に帰り午後芽室へ行くとのことと雨が降って来たので川北温泉へ送って頂いた。

聞くと満員とのこと。食事をして風呂に入り車を呼んでもらい次の帯広観光ホテルに行ったが又満員で、芽室駅へ行きJRで帯広と行きバスで紅露のいる中札内へ。久しぶりでカリマリの仲間と会って話し合っ懐しい思いが多く、その日はそこの旅館で一泊。夕食後紅露がビールと付持を持って尋ね来て話し合っ一時を過ごした。

翌8/2バスで帯広に出てバスで阿寒に行き、美幌行に乗り、辺計礼山の登山に奥春別で下車したが、雨がひどくなり近くの喫茶店で昼食後東京の車をヒッチして川湯の仁伏温泉のY・Hに行き一泊した。よい美しい湯だった。

8/3川湯温泉駅からJRで斜里に行き、峰浜休養センターに行き一泊。所長の斉藤さんによると今年3月北海道アルペンサービスの川越さんと田中三郎(JAC、一等三角点研究会員日本300名山登頂)と一緒に海別岳へ登ったとのこと。私は海別川コースから登ろうと思うと云うとそのコースは水害で荒れているとのこと、一泊して翌8/4 7時出発。糠真市川林道を走り、登山口迄車で送って頂いた。こゝから先地道の林道が約4K余り登ってその先右に赤テープの標識のあるブル道を約1K登って古い道跡を登って稜線に達した。

途中根曲竹や灌木が茂っていたが、こゝから先は殆ど這松の群生で道は消えていた。

枝から枝・幹から幹へ松を踏み渡って殆ど地を踏まずに登ったが、天候も段々悪くなり山頂から800m手前でガスがかゝり、時間的にも帰りが遅くなり危険だし又所長に心配かけると思っ断念して撤退することにし経路下山。センターに戻って荷を受取り所長に状況を報告し、来

春4月残雪期に再度挑戦することにしてバスで斜里，夕食後JRで摩周湖行き，駅前民宿で一泊。

翌5日雨だったのでバスで阿寒湖畔に行き，昼食後散歩観光してバスで帯広へ。深夜バスで札幌に行き，翌8/6は札幌で遊んで将棋センターに行ったら友人と会ったりしてC・Hで一泊して翌8/7のフェリーで帰京した。

今夏の山旅で珍しい変わった人との出会や，札幌駅で大倉さんと会ったことや，山々や路傍でアサヒランの群落が目についたのと乗切草，ニワトコの赤実キリン草が山頂で見かけた位で，シラネアオイの美花にお目にかかれなかった。

コース・タイム 7/22 19.06 太秦 東舞鶴 21.45～54 フェリーポート 22.03～23.00
7/24 4.10～25 小樽港 5.00～6.30 小樽駅 7.05～10 余市， 8.03 ダムの木 9.42 林道に出る。9.54 集材所， 11.17 309/310 林班， 14.40～15.00 273/272 林班， 15.50～16.15 北川宅， 16.35～49 余市駅， 19.44 長万部（泊） 7/25 8.00 駅前， 9.30～45 北松山， 10.00～05 太櫓町， 11.26～30 ゴルジュ， 12.30～13.02 太櫓町， 13.30～40 北松山， 14.20～30 宮野， 15.30 乙部温泉光林荘（泊） 7/26 8.10 出発， 8.35 乙部山登山口， 9.08 行者洞 15 K， 10.26～30 3.5 K， 10.52 4 K， 11.30～40 乙部山， 12.25 分殆峠， 13.08～14.19 乙部 15.53 八雲駅前民宿（泊） 7/27 8.50 出発， 9.07 黒岩， 9.31 ロコツ山口， 10.24～28 長谷川宅， 11.53～12.20 林道終点， 14.55～15.14 ルコツ山， 17.28 山道， 18.00 林道， 18.33～35 長谷川宅， 19.30 高野宅（泊） 7/28 13.50 出発， 14.18～15.48 長万部， 19.27～45 小樽， 20.45 札幌（泊） 7/29 8.06 札幌， 9.45～9.55 奈井江， 10.40～44 不老滝， 10.46 林道分岐， 11.20～25 林道終点， 12.20～35 美唄山， 13.16～20 林道終点， 14.00 林道分岐 14.40 ヒッチ， 15.00～16.27 奈井江， 17.07～10 滝川， 18.10～12 深川ターミナル， 18.16～19.24 深川駅， 20.25 幌加内（迫） 7/30 6.10 出発， 7.00 湖畔， 9.30 ピッシュャリ林道 10.18～25（沢渡り，登山口）， 11.17～22 林道， 12.12～8.7 K 登山口， 13.00 林道入口 3.2 K， 13.12 蔭の台， 14.05～47 美幌， 16.51 中川， 17.07 ポンピラ温泉（泊） 7/31 8.55～9.20 天蓋，中川， 13.46～14.45 札幌， 16.59～17.07 新得， 17.38～18.20 御影， 18.50 芽室小屋（泊） 8/1 4.40 出発， 6.18～23 山頂を望む， 7.24～38 芽室山， 8.53 3 K， 9.26～35 芽室小屋（5.7 K）， 10.55～11.07 円山牧場， 12.30～50 御影， 15.11～16 帯広 16.45 中札内（泊）， 8/2 7.14 出発， 7.48～8.20 帯広， 11.10～20 阿寒湖 12.00～15 奥春別， 12.20～13.15 喫茶店， 14.00 川湯・仁伏温泉 Y・H 8/3 8.00 出発， 8.15～10.26 川湯駅， 11.15～50 斜里， 12.15 峰浜にヨロウナベツ休養センター（泊） 8/4 6.55 出発， 7.10 登山口， 7.50～8.06 林道・山道分岐， 8.47 ブル道終点， 11.30～40 引返， 15.30～35 ブル道， 16.12 登山口， 16.45～50 ウトロ 132/128， 17.23～28 センター， 17.42～50 峰浜， 18.20 斜里， 20.04 摩周（泊）， 8/5 8.20 出発， 9.05～35 弟子層センター， 10.22～14.00 阿寒湖， 16.45～23.55 帯広 8/6 6.00 札幌（泊）， 8/7 7.06 札幌 8.03 小樽 8.30 10. フェリーポート 8/8 16.00 東舞鶴

帰京

〔個人山行〕

向 山

大 槻 雅 弘

大野ダムを過ぎると2.5 km程で青い吊橋が見える。橋は向山橋と書いてあり、和知町営バス“向山”のバス停前でもある。

その吊橋を渡ると、山麓に20軒ばかりの家がある。それが向山の部落である。この吊橋から目指す向山の山姿は望める。村に入る東側に神社がある。この神社は滝神社といい、ダムが出来た時に今の場所に水没地から上がって来たものである。ダムが出来て2、3日前に30周年記念があったばかりで、知事さんがダムに来て記念植樹をしたそうである。

地元の老人に山道を尋ねると、「よう、まあ、あの山へ登るって。わしはここで生まれ育ったが、20～30年三角点へ登った人はおらんぞ。」と言う。

ずいぶん前に京の梅ヶ畑の人が砥石を出すのに雇われて、中腹の尾根から切り出した砥石を運んだことがあるが、今は道もないし登れないと忠告される。その忠告に逆らうように地図をひろげて、「ほら、こんなにあちこち山へ登っているから心配いらん、この白い車が明日の朝までここにいたら山で熊に食われたと思って捜して欲しい。」と言って出発した。

滝神社の鳥居を左手に見て、道はすぐ右に大きく曲がる。すぐ左に山手に向かって分岐する方へ進むと200m程で山道になる。これを真直に行けば墓があるらしかったが左の谷へ入り、植林の中を70～80m登ってから右の尾根に取り付いた。尾根には、踏み跡があり、予想どおりP411mとP540mを結ぶ線の尾根に登った。そこはちょうどP411mの西へ少し下がった処である。

そこからは、ほとんど平らな尾根を進むと自然石に刻まれた『右はたみち、左やまみち』の道標をみる。なんとも素朴な指導標である。下で道を尋ねたとき老人が昔石碑があったが、今は、どうなったかわからんがと言っていたものだろう。

この分岐からP540mへ約150m程の上り坂となるが、道はピークへ登らず、山腹を巻くようにして、P540mと△655.5mを結ぶ南北の尾根の鞍部へと続いた。思っていたよりも道は踏まれていて、古老の言う20～30年登ったことはないという程のものではなかった。最後の登りに一汗かくと、頂上は平らな雑木の中を少し歩くと見晴らしのない木々にかこまれて、三角点は静かにあった。下るルートは、真南にルートを探って尾根を下ることにした。一部分かりにくい処もあるが、忠実に尾根をたどれば踏跡がある。それを地図上の林道まで一気に下った。下り立った尾根の末端から小さな谷を渡ると立派な林道に出た。この辺りは“京都府立大学演習林”であって、年度毎の卒業回生の植えた木々が下る道々に美しく植林され、整備されていた。

林道、宮ヶ谷線と肱ヶ谷線の合流からは更に良く整備された道で、両側の木々には植物園並に一つ一つ名札がつけてあり、木の名前を覚えるのもってこいの場所であると思った。

その整備された林道を進むこと約1時間で栃迫線の出合に着く。その出合には立派な3階建の府立大学演習林事務所が建っており、そこからは2車線の車道となりテクテクと元の向山橋まで歩いて車止まで戻った。

谷川で汗を流していると、出発時の老人が出て来て「上へ登って三角点の写真を撮ってきましたヨ。」と言ったら、「まあ、なんと。」驚きで我々地元で登らないものをとということであった。

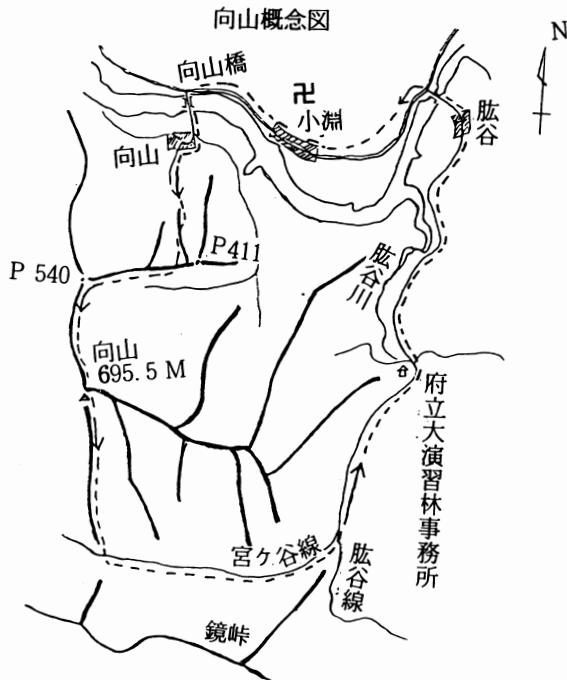
1991.7.27 大槻雅弘他1名

コースタイム

桂 8:00—10:00 向山橋 10:20……10:54 P411 尾根……11:36 P540

鞍部……12:15△向山 655.5 m 13:10……13:54 林道へ出る……14:25 肱谷線分岐……14:

45 演林所事務所……15:45 向山橋 16:00—18:00 桂



〔個人山行〕

五竜岳と一等三角点、四座の山旅

服部正義

全国の山々写真整理中、五竜岳の記念写真が無いので2泊3日で五竜岳、300名山の唐松岳とかませて行動に移る。8月6日、午後勤務終了後、22時15分、洛西車庫出発、高速自動車道を利用して五竜とおみスキー場山麓駅に8月7日、6時50分到着、仮眠して、8時00分にテレキャビンとリフトで、地藏ノ頭(1,676 m)に上る。天候の回復を予想してか、他府県ナンバの自家用も多い。8時15分、1,676 mを出発、小遠見山ぐらいから身体の働きも軽い、白岳(2,531 m)まで6ピッチで10時18分、大分ガスも切れてきた、お茶と塩をねぶり、五竜山荘に下り五竜岳に6ピッチで登る、11時00着、以前縦走した時、ガスで五竜岳を見落す失敗して記念写真が無いは

ず、今日は天気も回復し立山剣岳・白馬岳・雨飾山等々の山も見えかくれする様になった。11時15分記念写真を終えて300名山の唐松岳に向ふ為下山。五竜山荘少し上った所が白岳を左にまいて大黒岳、牛首岳を通りPM13:10分唐松岳に到着、八方尾根からも多くの登山者が登って来る。13:20分写真を取り下山開始、白岳のピークに14:20分に到着。リフト駅、最終16:00に乗る為に急いで下山、リフト及びケビンに乗次いで無事山麓駅に着く。昼食も歩きながらするいそがしい登山だった。

8月8日

①武石峰(1,972m) 前日に武石峠まで移動8月8日AM4:30分行動に移る。有料道路を使わずに武石村から武石峠、バス停武石峰に車を駐車して、ササの草原を5~6分登って行くと傷のついていない一等三角点だ、廻りのケルンの上に観音様が座っておられる、記念写真をとり早々に下山まだまだガスが切れない。松本市へ出て長野ロードで塩尻インターまで走らす。

②鉢盛山(2,446m) 国道19号を木曾福島に向かって5kmほど走ると朝日村の標識を右折して朝日村役場に直行、駐車場で朝食を済ませ8時45分まで待って、入山許可証とゲートのカギを貸りて50分ほど走ると登山口に到着、途中林道が荒れており、時間がかかる。8月8日AM10:00登山開始、頂上まで3.6Km、1時間15分で登頂、ダケカンバやコマツカの中急登であるが、涼しい登山・途中イワカガミ、セリバシオガマの白い花が迎えてくれた、山頂も360度展望よろしく、三つの村に向って三つの祠が祭ってあった。やはり雨乞いの山であった。記念写真をとり、強い太陽の下、「はだか」になり身体を消毒し15分ほどとうとうとする。11時35分下山開始。途中プレハブ小屋の小屋、権現の庭、カモシカの棚を通りPM12:35分登山口に戻る。元の悪い林道を通り朝日役場でカギを女性職員に返すとほんまに登山してこられたのと言われ無事登って来ましたと御礼をいって、次の山摺古木山に向ってR19を名古屋に車を走らす。

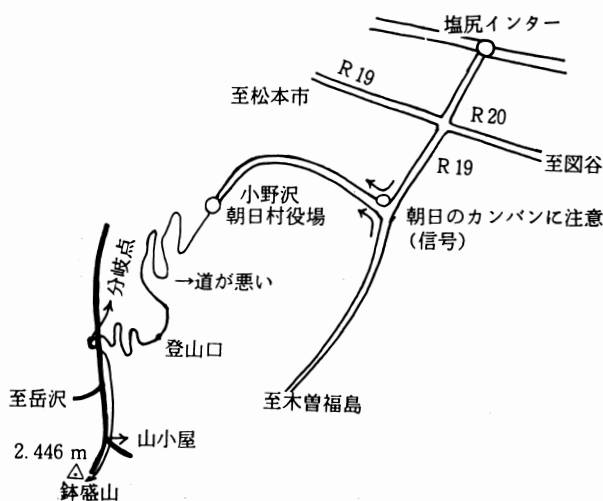
③摺古木山(2,168m) 南木曾町から妻籠宿R256号を左折して、太平街道太平宿で摺古木山のカンバンを見つけて、左折して、川と平行して登って行く飯田市水道局の取水口までアスファルト道でそれからは一般車乗り入れ禁止のカンバン有り、徐行しながら40分ぐらいかかったが終点にPM8:40着。立派な山小屋、手前にトイレがあり、今夜はゆっくり眠れるだろう。さっそく車のラジオを聞きながら、食食用意にとりかかり、ビールを飲みながら食事を終え、20:00にシュラフに入っておやすみ。8月9日、AM4:30に目が覚る、朝食を済ませ5:00登山開始。鉢盛山もそうだったが、この山もシナノザサが多い山で鈴を出して登ってゆく、天気も良く、20分ぐらいで前方に摺古木山の全容が見えた、カメラを出して1枚、この山も二次林の山らしくカラマツ、トウヒ、ダケカンバ、ナナカマドが多く雨量が多いのだろう。16ピッチで80分で山頂に登る、山頂部分はキタゴウマツに囲まれているが展望よろしく、木曾御岳、200名山の安平路山南アルプスの山が少し見え申し分のない山頂だ、さっそく一等三角点で記念写真、残念ながら南方のカドが欠けている、御料局の三角点も記念写真を1枚、その右側から登山道が安平路山につながっている。この山は中央アルプスの南端に位置する山で地質は黒石花崗岩で風化が進んでいる、林道を通行すると良くわかる。7:00に下山開始、8:10分に登山口に着く、又林道をゆっくりゆっくり太平宿の村へ出て、県道R256に出てR19を左折して中津川インターから京都に向かって車を走らす

が竜王～茨木間、渋滞の為関ヶ原インターでおりR 356で関ヶ原合戦跡を見学する。

④呉枯ノ峰（見当見山）532 m

今津から滋賀途中に出て帰るべき、木之本町に入る、あゝそうだ、一等三角点の呉枯峰登って帰ろうと、県立伊香高校の正門前を左折して、赤川の横の林道を進む事4～5分で林道終点手前に整備された登山道を見つけて、さっそく登山開始、登ってゆくと尾根道と合流した所に傷のついていない一等三角点、呉枯ノ峰があった、展望はあまりよくないが羽子立山、百里ヶ岳、野坂岳等の山が見え登って良かった。下山道は田上山を見学する為、羽柴秀吉が柴田軍の南進を防ぐ為に虎子御前山、田上山に砦を築いたようだ。何百年前はこの辺で血を流していたんだなあと思いつつハンドルは車庫に向っていました。三日ぶりの風呂をゆっくりつかり登った山をうかべながら汗を出す、最高の気分、明日からの仕事も無事故でがんばろうと、又活力が沸いてくる登山病

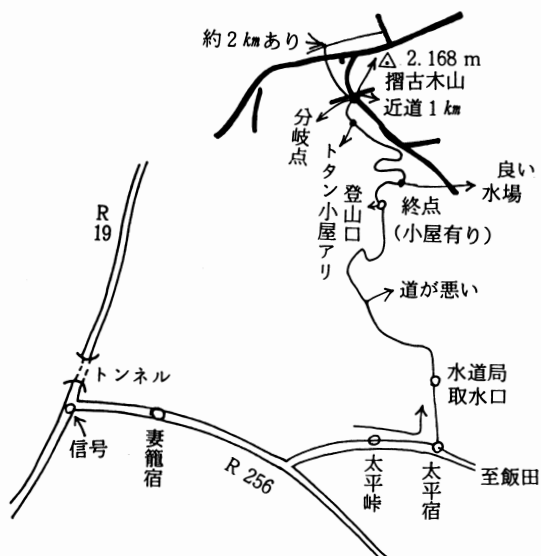
①鉢盛山



コースタイム

役場	林道	登山口
9:00		9:50
登山口		分岐点
10:00		10:45
分岐点		山頂
10:50		11:20
山頂		登山口
11:33		12:35

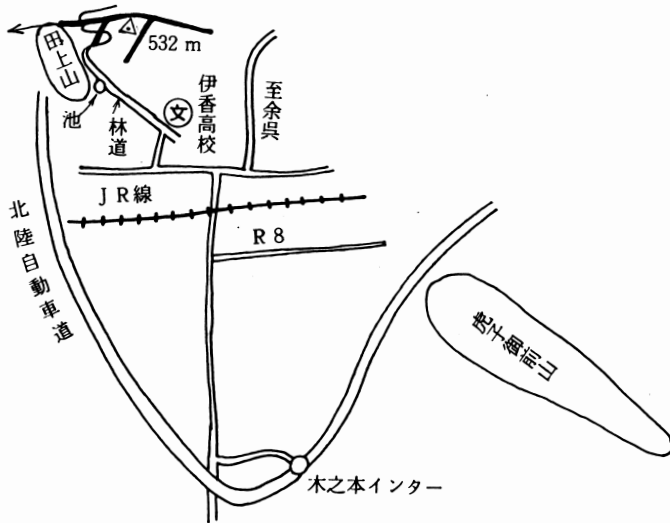
②摺古木山



コースタイム

登山口	最初の水場
5:00	5:15
水場	分岐点
5:17	5:55
分岐点	山頂
5:55	6:22
山頂	登山口
7:00	8:10

③呉枯峰（見当見山）



〔個人山行〕

魚谷峠から魚谷山 Δ 813.7m

7月14日

梅津 吉田 武

出版山行のためにここ1ヶ月程は福知山周辺通いであったが山行も一段落したので、北山に足を向ける事にした。

終野の野球グラウンドを横に見て、鴨川を逆登ると中津川町につく、出合橋で右折して中津川溪谷に入る。

2Km程車を走らせて松尾谷と、直谷の出合いに車を置いて歩きだす。魚谷峠の300m程手前、標高700m位まで林道が出来ている。登山道は松尾谷についているが、ほとんど歩いた跡がない、林道終点からは、登山道に戻るように道が付けられていて、15分程で魚谷峠についた。

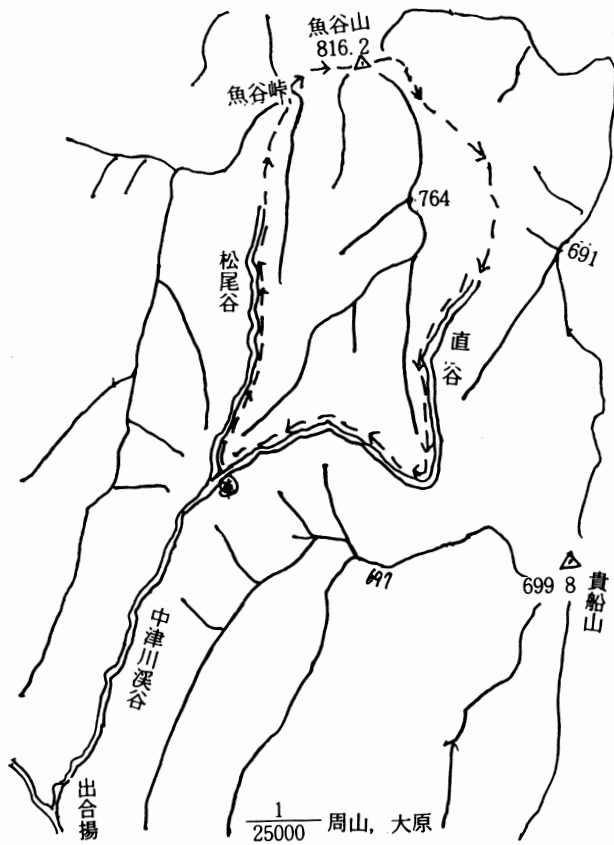
峠にも灰野の方から林道が上がって来ており、道標が林道に脇にいくつも付けられていた。

峠からよく踏まれた道を10分程登ると、三等三角点についた。

展望の良くない三角点でバンザイをして、すぐ下山する。

三角点から急な下りで、途中より赤いビニールテープに導引かれて下がったが途中より道が怪しくなってきたがテープはしっかりついているので少し戸惑うが、磁石で方向を確認してから下ると、直谷の上部に出た。

滝谷峠へ登る分岐で昼食を済ませて直谷の林道を2時間程ぶらぶらと下って車についた。



例会報告

例会№	目的地	月日	天候	担当者	参加者	記事
1841	夏山合宿 白峰三山	8月1日～ 5日		山岡 昭弘		(次号詳報)
1842	三方崩山	7月13日～ 14日		大槻 雅弘	岡田, 三橋, 渡辺	(別稿詳報)
1843	京大芦生演習林 ブナノ木峠△939	7月13日～ 14日		鷺見 敏一	鷺見 (寿)	(次号詳報)
1844	十二支の山 羊蹄山と道南の旅	7月24日～ 8月4日		吉田 武 大倉寛治郎	津田F, 今井 大倉F, 吉田F 2	(別稿詳報)

部 員 動 静

目 的 地	月 日	天 候	参 加 者	記 事
魚谷峠から 魚谷山	7月14日		吉田 武	(別稿詳報)
半国高山	7月21日	晴	大槻 雅弘 岡田 茂久 鷺見 敏一 鷺見寿末子 方山 宗子 (他)	北山の峠を歩いて、ピークを目指そうと思いい小野郷下ノ町からスタートして、供御飯峠→△半国高山→岩谷峠→青谷峠→緑坂峠と四つの峠を歩いた。 昔の峠道は、今は少し荒れてはいるがなかなか静かな山行を楽しめるコースであり、部員諸氏にもおすすめしたい。
夏の北海道の山 旅	7月22日～ 8月8日		坂井 久光	(別稿詳報)
向 山	7月27日		大槻 雅弘	(別稿詳報)
剣 岳	8月1日～ 4日		竹田 勉 上村 次男 森塚 良郎 井戸 澄夫	故大木秀実君の追悼のための登山であった。予想外の雨でルートの変更を余儀なくされた。
和知富士(大迫)	8月3日	曇	大槻 雅弘 和田 良一	(次号報告)
五竜岳と一等三角点 四座の山旅	8月6日～ 8日		服部 正義	(別稿詳報)

雑 報

▲▲▲ 8月の集会

8月12日(月) 場所 厚生会館4F

出席者 (本局)岡田, 大槻(雅), 古市, 和田, 方山, 井戸, 山元, (洛西)服部
(OB)津田, 横井, 坂井 (梅津)吉田 (高速)大倉 以上13名

内 容 例会報告ほか

席上, 洛西の服部さんから深田久弥氏の「日本百名山」のうちすでに98山登り, あとは会津駒ヶ岳と平ヶ岳の2山を残すのみとの報告がありました。

▲▲▲ 恒例の京都山の会との合同登山のお知らせ

毎年恒例となっております京都山の会との合同登山の日程等が決まりました。

日 時 11月9日(土)～10日(日)

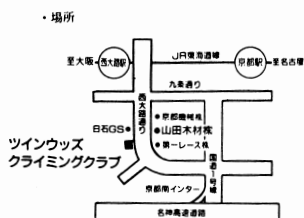
行 先 長野県飯田 「風越山(権現山)」1,535m

詳細は, 次号でお知らせします。

▲▲▲ フリークライミングの人工壁開設のお知らせ

7月16日に西大路十条の山田ツインビルに「フリークライミングの人工壁」が開設されました。初心者向から上級者向まで4エリア設けられています。

場所等は次のとおりです。



・営業時間

平 日 …… 17:00～22:00
土 日 …… 14:00～22:00
日曜・祝日 …… 12:00～20:00
水 曜 日 …… 定 休 日

・料金表

スクール入門 コース	入会金(保険込み)	利用料(3時間無料)		ビギナー (保険込み)
	1年間有効	1回施設利用料	月会費(利用料無料)	
2,000	5,000	1,000	10,000	2,500

※スクール入門については, ビギナー(初心者)の方のためのコースです。

毎週土曜日15:00～17:00に行います。

※利用料については, 1回毎に1,000円もしくは, 1カ月間10,000円で何回利用していただいても結構です。(どちらかをお選び下さい。)

※利用時間は, 3時間を超えすと30分毎に1,500円をいただきます。

・レンタル料金

	円
シューズ	300
ハーネス	300
チョークバック	100

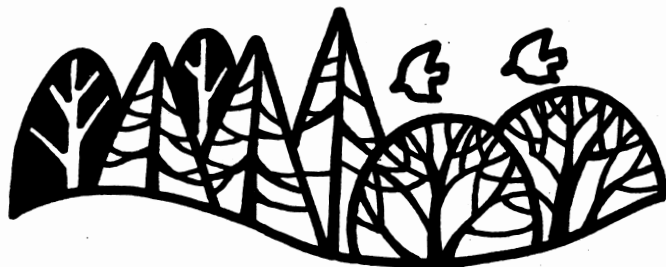
▲▲▲ 他山岳会の会報(受贈分)

6月分 愛宮ニュース

烏帽子(新宮山の分)139号

7月分 一等三角点, 京都山岳, 比良山岳, 近畿山行, 趣味の登山, 木雞, 山友

8月分 北山, 京都山岳, 比良山岳, 趣味の登山, 木雞, 山友, 青嶺



HIROSHI HASEGAWA'S SHOP
 FOR MOUNTAINEERS & BACK COUNTRY SKIERS
THE LOG CABIN CO.
 KYOTO JAPAN

結婚引出物・内祝・開店記念品・粗品
 仏事用お返し品・お中元・お歳暮用品

贈答品総合センター

厚生会指定

サンコークラフト

西島輝雄

左・川端丸太町下る下堤町88

TEL (075) 771-3442

帆布・濾布
 テント・シート
 雨合羽

木村工業有限会社

京都市中京区ミズ車庫前

TEL 801-5331 (代)

西大路営業所

下京区西大路七条下ル

TEL 321-0251

登山とアウトドア専門店

今、アウトドア派大集合!!

●登山用品はもちろん、
 注目のスポーツ
 カヌーをはじめ、
 ひと味違う充実の
 品揃えは必見のもの!!



ビッグホリイケ

営業時間 AM10:00~PM9:00 (年中無休)

京都市中京区御池通高倉西入(千代田生命京都御池ビル2F)

☎(075)222-0363

京都で唯一の山の専門店

Now Out door sports
 ハイキング&キャンピング・クライミング
 アウトドアウェア・US放出品
 ボーイスカウト用品

mountain

〒604 京都市中京区二条通河原町西入
 TEL 075(258)-0548
 ●営業時間 AM10:00～PM8:00 毎週火曜定休
 (株) スポーツ コニシ
 創業1977

自費出版のススメ

自分の文章が活字になる喜びを味わってみませんか 詩・随筆・自分史・社史の編集から印刷・製本までプロの小社がお手伝いさせて戴きます

(株) 北斗プリント社

〒606 京都市左京区下鴨高木町38-2(バス停前)
 TEL (075) 791-6125(代)
 FAX (075) 791-7290



建設省国土地理院発行地図販売特約代理店
 国土地理院空中写真(カラー・白黒)取次
 通産省地質調査所発行各種地質図取扱店
 各種地図製作並びに印刷
 地形図は、20万・5万・2万5千とも全国を常備しております。

株式会社 小林地図専門店

〒600 京都市下京区^{あけす}不明門通六条下る西側
 (烏丸通六条東 1筋目下る) ☎ (075) 351-6598

地下鉄：五条駅 5番出口・市バス：烏丸六条下車

平成3年9月1日

京都市中京区壬生坊城町48

京都市交通局内

京交山岳部